

報告書①

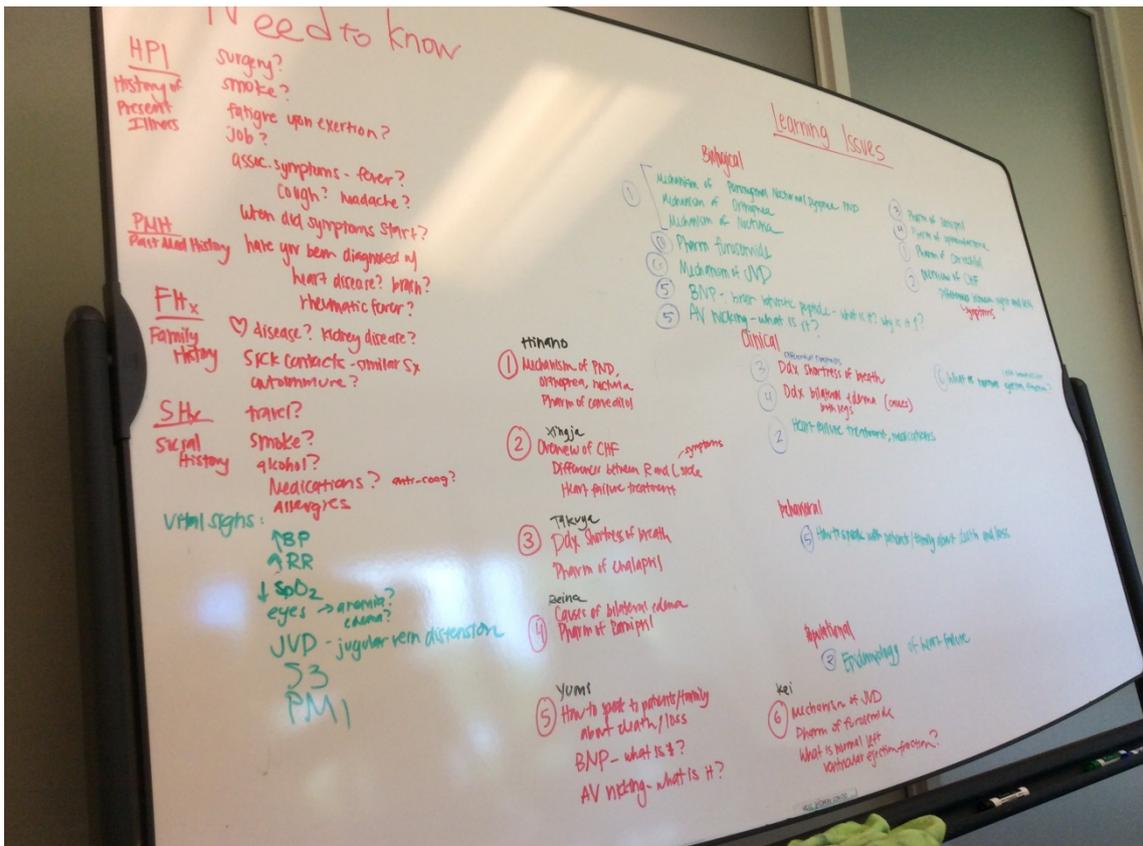
ハワイ大学臨床推論ワークショップを終えて

8月6日～12日にハワイ大学臨床推論ワークショップに参加した。

ワークショップの内容は、JABSOMの学生と行うPBL、模擬患者を相手にした医療面接、注射の練習である。

① PBLについて

PBLの流れは佐賀大学で行われているものと同じであった。異なる点はNeed to knowを上げていく時に身体診察を先に挙げていき、侵襲性があるものや時間がかかる検査は最後に挙げることを徹底していることだ。より臨床の現場に側していると思った。また、検査をすればするほど医療費が高額になるアメリカだからこそ、検査に頼らない身体診察を重視すると考えたのではないかと考えた。



② 禁煙指導、医療面接試験について

模擬患者に対して行う医療面接は2回あった。

授業で重要なポイントや手技について習い、その後模擬患者を相手にして診察を行った。また、その様子は1人ずつビデオに録画され、良い例を全員で見ながらフィードバックが行われた。面接の前は極度に緊張したが、OSCEを控えている私にとってとても良い練習になった。

③ 注射

筋肉注射、皮内注射、自己注射を体験した。2年生の学生とペアを組んだため、自分が手本にならなければというプレッシャーを感じた。外国で注射をした経験のある学生がアドバイスをくれて、大変有り難かった。注射は打つ人も緊張するが、打たれる人が感じている不安の方が大きい事を忘れてはいけないと感じた。



④ その他

JABSON について…

JABSON の建物はとても綺麗だった。JABSON を見学して「学生が信用されている」と感じた。施設は充実していて、学生が自由に使える物が揃っていた。娯楽室もあり、そこにはTVやゲーム機、冷蔵庫、ポットがあった。「勉強に疲れたらここで休憩する」と学生は言っていた。一方で佐賀大学では一部の生徒のマナー違反が原因なのか、学生は全く信用されていないと感じる。談話室どころか勉強する場所さえなくなりつつある。それはJABSONとの大きな違いである。

ハワイでのその他のアクティビティについて…

放課後や週末は JABSON の学生や、他大学から参加していた学生たちとハワイならではのアクティビティを楽しんだ。サンセットクルーズでハワイを海から眺め、セグウェイに乗り、登校前にダイヤモンドヘッドに登り、人生初のサーフィンにも挑戦した。個人旅行では行くことのないようなローカルフードのお店や、異様にテンションの高いスケート場やボーリング場にも連れて行ってもらった。非常に楽しかった。

他大学の学生との交流を通して…

今回のワークショップには佐賀大学以外に、高知大学、岡山大学、鳥取大学、大阪医科大学、東京女子医科大学、昭和大学、帝京大学と様々な大学から参加していた。私は佐賀大学に医療英語の授業があることについて多くの学生から羨ましがられた。むしろ、私は彼らが独学で勉強してこの研修に参加していると知りとても驚いたと同時に、自分の恵まれた環境を生かしてもっと勉強しなければならなかった。

参加者は 2 年生から 5 年生まで学年も様々だったが、全員ととても仲良くなることができた。彼らはこれからも大切にしていきたい同志であり、友達であり、ライバルだと思う。

JABSON の学生との交流を通して…

JABSON の学生たちは学校がない日も学校に来て勉強しておりとても熱心だった。また、学校から推奨されていないようで、アルバイトをしている人は少なかったが、他にすべきことがたくさんあってそれどころではないと言っていたのが印象的だった。

12 日間の滞在中、彼らはずっと私たちのことを気にかけてくれて、とても親切にしてくれた。ここまで充実した研修にすることができたのは彼らのお陰だと思っている。彼らは私にとって初めての母国語が違う友達である。別れ際、“See you soon” と言ってくれた事がとても嬉しかった。次に会う時にはもっと色々な表現で感謝の気持ちが伝えられるように、英語を上達させようと強く決心した。

報告書②

ハワイ大学臨床推論 WS 報告書

今回のワークショップに参加する数日前、佐賀大学医学部のとある先生と医学教育において最も大切なことは何かという話をしました。その時に私達が出した答えは『先生と学生の距離』でした。今回のワークショップを通して私が最も強く感じたことは、ハワイ大学の学生と先生の距離が近いことでした。先生と学生の間には距離があっては、どんなに素晴らしい信念を持った先生が講義をされても学生の心に届くものはほんの僅かであることが多いと思います。ハワイ大学では毎週金曜日の昼になると必ずほとんどの先生たちが学生の使用するカフェテリアに集まり、学生達は自由に先生と会話を楽しんだり、質問をしたり、時には共にビデオゲームをして常に先生との距離が近く保たれています。そして先生もまた、学生の名前を確かに記憶し、学生との会話の時間を大切にされていました。

ワークショップ 1 日目は PBL と **Physical Examination** を行いました。PBL Case1 では心筋梗塞の病態や治療、同じ症状を呈する疾患について再確認することができました。手順は日本とほとんど変わりませんでしたが、1つのユニットに占める割合が異なりました。講義が 2 割、PBL は 8 割とかなり高いと感じましたが、これが学生に勉強をする意欲を促していると感じました。1 度の PBL で少しでも分からないこと、再確認したいことなどは列挙し、徹底的に調べ上げます。(写真 1) ここまで徹底していて、更に分からないときは先生に聞くことができるという体制が整っていれば、勉強しやすくなり、意欲が湧くのかもかもしれません。ハワイの学生が、日本の学生の多くと違い 1 日に 4,5 時間医学を勉強し、土日もまたそうである事実はこれらが鍵を握っているのではないかと感じました。**Physical Examination** では、呼吸器の身体診察において日本では習わなかったものが一つありましたが、それ以外に特に大きな違いはありませんでした。実習室で小さなレクチャーがありその手順に従って実際に聴診器を当ててみたり、打診をしたりしました。呼吸器の診察手順を再確認できました。

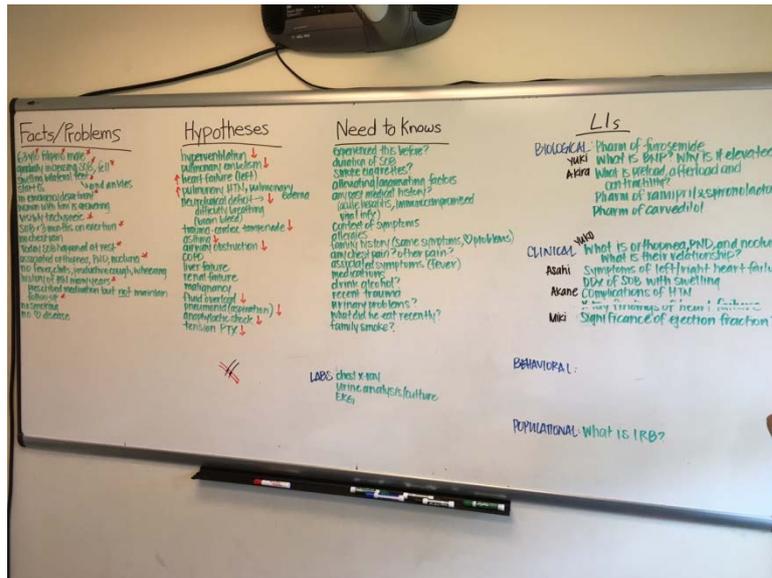


写真 1 PBL Case2

2 日目も同様に PBL Case2 でした。Case2 では心不全の病態、治療などについて再確認できました。3 日目は模擬患者(Simulated Patient)に対し禁煙指導 (Smoking Cessation) を行う実習がありました。これはもちろん全て英語で行われ、患者も慣れているためとても現実的であり私には難しく感じました。どんなに事前資料での事項を暗記しても、実際に 1 人の人を目の前にした時、たった一度の禁煙指導でもこれだけ責任を感じるものかと痛感しました。

ついに訪れてしまった 4 日目は注射の打ち合い(写真 3)と模擬患者への問診を行いました。友達に筋肉注射と皮下注射と、自分に自己注射を行いました。筋肉注射は三角筋に行いましたが、レクチャーの際に先生が“ためらわず、思いっきり、ダーツをするように。そうすれば患者は痛みを感じない。”と仰っていたことを思い出し勇気を振り絞って打つと、針の先がコツンと上腕骨に当たりました。さすがにこれは強すぎたと思い、痛みの有無を尋ねようとした時、友達が「ほんとに痛くないんだね〜」と言葉を發したので実習中は何も言いませんでした。次また筋注を行う機会があればその時は今回の反省を思い出して挑みたいと思います。日本では経験できないことを短時間で経験することができ、大変貴重な時間となりました。

午後の模擬患者への問診は日本でも同じことをしたことがあったため言語は違いましたがスムーズに行うことができました。それにしてもやはり外国人の

演技力は凄い……………この時の SP もとてもリアルでした。また、この日 Dr.Sakai によるハワイの歴史やその他諸々についてのレクチャーがありました。

Dr.Sakai は毎朝 Morning Story を話してくださいましたが、私は個人的にこのレクチャーでの話が最も印象に残りました。今のハワイの人々には様々な人種の血が流れており、また同様に文化も多様でありながら彼らは元々ハワイに根付いていた文化を守り、後世に受け継いできました。さらに、伝統を後世に受け継ぐだけでなく自分の経験を活かして若い世代に伝える試みが様々な面で見られました。医学教育においては PBL がまさにそれだ、と Dr.Sakai は仰っていました。先生方は自身が経験した症例を学生に伝え、考えさせます。学生達は疑問点を自分で、もしくは友達と見つけ勉強していました。

最終日はマネキンロボットを用いて BLS・ALS、機械を用いて気管内視鏡の練習(写真 4,5)と内視鏡手技の練習(6,7)を行いました。特に内視鏡の訓練用機械に関して、佐賀大学でも同じもので練習できればより現実味があって学生の興味をひくのではないかと思います。



写真 5 : 気管支内視鏡にて声門通過を待機している



写真 6 : パソコンのシミュレーターで血管を引き抜く動作。



写真 7(右) : 小さなプラスチックを用いて実際に細かい操作を画面で見ながら操作する練習

日本の大学から参加した学生のうちの多くが下級生でしたが、彼らは既に似たことを日本で習った上級生に負けることなく英語での講義、実習に積極的に参加していました。また、様々な場面で見られた、上級生が下級生に教える姿は「屋根瓦方式」を連想させました。このように今回のワークショップを通して学年の壁を越えて互いに学びあう雰囲気が自然と作られたことは決して偶然ではないと思います。このワークショップにおける醍醐味の一つなのではないかと感じました。

5日間という短いプログラムでしたが実際にその内容はとても濃く、一つ一つが胸に刻まれました。自分の英語力の不足を痛感し、それを磨くことができ、次の目標も定めることができました。他大学から参加していたメンバーもとても個性豊かで、学年関係なく皆仲良くなりました。大変充実した時間でした。このような医学教育制度を佐賀大学に備えてくださった先生方、後援会・同窓会の皆様に心より感謝致します。是非、後輩の皆さんにもこの素晴らしいプログラムを通して様々なことを経験し、自分の医師像を築く糧にしてほしいです。今回のプログラムを新しいスタートとして将来は佐賀の医療に貢献できるよう、次の目標に向かって進みたいと思います。

報告書③

ハワイ臨床推論WS 報告書

Introduction

私は今回ハワイ WS に参加しました。

1 番心に響いたのは、自分よりも圧倒的に勉強をし、幅広い知識を持った、自分と同じ勉強スタイル、考え方をもち他大学の 5 年生との出会いでした。その他の医学生や、ハワイの学生との出会いでも、井の中の蛙大海を知らず、というのを思い知りました。この WS を通じてさらに勉強しようという思いが強まりました。

私は、医学というこの領域において誰にも負けない知識と経験を身につけたいと思います。日本だけでなく世界に通ずる知識、経験を求めていきたいです。

その面、今回の実習では、英語での PBL、英語での問診、injection、など、日頃経験出来ない貴重な体験ができて、すごく為になりました。

First day

初日は、日本各地から今回の WS で集まった医学生たちとの交流会でした。2 年生から 5 年生まで幅広い学年がいて、そこでの交流で佐賀大とは違う、学校ごとの医学教育、医学英語教育、各人の意識の違いなどを知ることが出来て、さらに視野、考え方が広がりました。

Second day

私の中でこの 2 日目がやはり 1 番きつかったです。実質 WS 開始の初日です。説明、会話などは全て英語で行われる環境、何もかもが新しく、右往左往する一日でした。

この日は初めてのハワイでの PBL がありました。まず驚いたのは、佐賀大では 1 週間 2 日に分けて行われている PBL が 1 日の午前と午後の 2 時間ずつに詰められていることでした。前半の PBL では、いつもしているような症例があり、そこから鑑別診断、Need to know, learning issue, を挙げるところまでを行います。この日の PBL は同じグループの 5 年生にいつもワンテンポ遅れてしまい、上手く発言することが出来ませんでした。

日本語での PBL に慣れているあまり、先に日本語で考え、それは英語に変換してという、タイムロスがワンテンポ遅れた原因でした。

この日、私はこれまでにない悔しさを覚えました。佐賀大ではきちんと勉強して、優秀だと、心のどこかで思っていたのかもしれませんが。そんな安っぽいプライドがここで折られて、私はそれだけでもこの WS に来た意味があったと思います。この日の夜は悔しさであまり眠れなかったです。次こそは、やってやる、誰にも負けたくないという思いを胸に、2 日目は学校をあとにしました。

この日は PBL 以外にも、**physical exam** の実習もありましたが、これはいつも行っている臨床入門の延長の英語版というだけなので、臆することはなかったです。

あえて言うなら、英語での声掛けをどのような単語、英語で行うべきか、は考えました。またこの日に気づいたのは、やはりまだ知識には乏しい、2 年生、3 年生にワークショップでの学習、実習を教える 5 年生の姿でした。

私は、この日、自分のことに手一杯でした。後輩をサポートする先輩の姿に胸を打たれ、尊敬を覚えました。次の日から私も後輩をサポートしよう。そう決意しました。

Third day

今さらながら学校への登校について述べておく。今後この報告書を見てハワイワークショップに行く人は役に立ててほしい。

ハワイ大学医学部キャンパス【以下 JABSOM とする】へは、ワイキキから 19.20.42 のバスに乗ると約 20 分で登校できる。片道一律 2 ドル 50 セント。私はワークショップ期間中、大学が開始は 9 時だが、前日の復習、その日の予習をするために 8 時は学校に行き、カフェテリアでコーヒーを飲みながら勉強をしていた。すごく清々しい朝だ。

この日の朝から後輩の勉強のサポートを始めた。人に教える時、自分が理解しているのは前提として、それはいかに相手にわかりやすく、相手のレベルに合わせて教えるのかというのは勉強になるし、また将来、医師として、患者さんに病気、病態を説明するときに必要な skill だと思いました。

さて、この 3 日目は、英語での禁煙指導の **Introduction** があり、その後、2 個目の症例の **PBL** が行われた。英語での禁煙指導では、いかに患者さんにもわかってもらえるような **common English** で、喫煙の危険性を示し、禁煙へと導いていくかが鍵であった。

そして、昨日の悔しさを胸に挑んだ 2 つ目の症例の **PBL**。

常に積極的な発言を心がけ、他の人が何か言わんとするときに、フォローを加えてみたり、聞かれたことにこうではないかといろいろなアプローチで攻めの姿勢に転じた。

まさ 2 症例目は半分私の独壇場に出来たのではないかというくらいの満足度であった。同伴していた他大学の **Doctor** には 5 年生と勘違いされるまでであった。ハワイの学生にも、1 日目とは全然違う何があったのか、とコメントをもらった。これで佐賀の名を知らしめることは出来たであろう。このレベルの **PBL** も今後も目指していきたい。

余談だが、佐賀は今回ワークショップに参加した大学の中では、医学英語教育、**PBL** に関する医学教育に力を入れているんだなあということを実感した。大学によって医学英語教育、**PBL** はまちまちでその違いにも興味を引かれました。また医学教育に関する会に他所の大学の生徒に誘われたりなんてこともありました。

Forth day

この日は朝 4 時に起床し、ダイヤモンドヘッドに登頂してから大学に登校しました。すご

く **Exciting** な気持ちでの登校だった。

この日は、**clinical skill** と実際に模擬患者さんに対する英語での禁煙指導、そして、フラダンスの練習を行った。

Clinical skill は、**no problem** でした。

実際の模擬患者さんへの禁煙指導はやはり緊張しました。

しかし、模擬患者さんがやさしく、聞き取りやすい英語だったので、なんとか行うことが出来ました。日本語でもしたことのない禁煙指導を英語で行うことは私の中ですごく **challenging** でした。良い経験になりました。ただやめたほうがいいと言って、やめれるなら患者さんも苦労はしません。喫煙のリスクの説明、メリットがないこと、周りへの影響を説明しつつ、やめる気持ちに傾けば、そこから一緒にやめる方法を考えていき、計画を立て実行に移す。この一連の流れでした。そして、少しでも計画を進められたなら、**Congratulation!**と褒めること。この流れは、日本の治療でも大事なことです。

フラダンスは、ごこちないながら頑張りました。

Fifth day

気がつけばもう 5 日目。

すごい速さで時間が流れていく。

やはりそれだけ詰めて密な時間を過ごしているのだろうかと考えながら、この日も朝はカフェテリアで過ごした。この日は、**Injection**、ハワイの歴史、レイ【首飾り】作り、模擬患者さんへの医療面接を行った。まず、**Injection** ですが、ペアを作り、お互いに筋肉注射、皮下注射などを実際にして体験するというものでした。

初めての自分が打つ注射は、すごく緊張しました。この針のせいで何か起きたらどうしよう、痛くしたらどうしようと、不安でいっぱいでした。この実習を経て思ったことは打つ方も怯えるかもしれないが、打たれるほうもまた怖いということです。上手く打つためには、自信を持って素早く打ち、そして、もう大丈夫ですよ、終わりました、と言ってあげることだと思いました。

そして、ハワイの歴史に関する講義を受けました。ハワイに関する知識を何も持たずにハワイに来てしまっていたので、すごく勉強になりました。

レイという首飾り作りも楽しかったです。

模擬患者さんへの医療面接は、前日禁煙指導で少し形式には慣れてきましたが、それでも緊張しました。アメリカでの診療のスタイルは、部屋に患者さんがいて、そこにノックをして医師が入っていくといった日本とは違うスタイルなのですが、私はなんとなくこのスタイルが好きになりました。なんというか、患者さんとの心理的な距離が縮まって医療面接を行えているような気持ちになりました。日本で日本語での医療面接をしたときは、私のほうも患者さんのほうもなんだか緊張してしまいごこちないものだったのですが、ここでの医療面接はすごく自然に出来て、いい経験になったなと感じました。

こうして5日目が終了し、ワークショップも残すはあと1日。

Final day

もうルーティンになりかけた朝のカフェテリアでの勉強も、今日が最終日になってしまった。最終日、主に、成人と小児の救急のシュミレーションと気管支鏡、外科手術のシュミレーションを用いた学習を行いました。気管支鏡と外科手術のシュミレーションはこれまでにしたことがなく貴重な体験でした。特に気管支鏡の扱いは難しく苦労させられました。気管支鏡の先を思った方向に進めるのがすごく大変でした。外科手術のシュミレーションは、ゲーム感覚で楽しくて手技を学べました。

そして、その夜は修了式と dinner が行われました。

ここでは私たちは教わったフラを披露し、またハワイの学生のフラも披露してもらいました。そして、今回のワークショップの修了証を授与していただきました。

Activity

ここでハワイで行った activity についても少し紹介しておきます。

- ・ダイビング…ウミガメとの遭遇 (ダイビング免許とっておくことを推奨) @Northshore
- ・サーフィン@Waikiki
- ・砂浜を端から端までダッシュ@Waikiki
- ・ダイヤモンドヘッド登頂
- ・カヤック@Kailua

などなど。どれもすごく楽しかったです。

Summarize

こうして私たちの6日間のワークショップが幕を閉じました。

勉強したい、他所の医学教育に興味がある、世界に興味がある、という人は、是非機会があれば、留学、ワークショップへの参加はしてみてください。

仮に後悔するにしても

「やらずに後悔よりは絶対やってから後悔すべき」

その経験は、自分の血となり肉となります。

ただ、その経験をどう活かし、自分や他の人に還元するかはその人次第。

ここでの体験、記憶は確かに私たちの胸に刻まれ、そして、今後の人生に大きく影響してくると、私はそう確信しています。

私は、日本をリードするようなあるいは世界をリードするような、立派な安心され尊敬され信頼され得る医師に必ずなります。

そのための努力は惜しみません。

今できること、それは、勉強することと経験を積むことです。目標に向かって全力疾走、

一生懸命に残された医学生の時間を駆け抜けたと思います。

医者において、無知であることは罪です。

今勉強している1つ1つが将来患者を救うという気持ちで真剣に勉強に臨んでいく覚悟です。

ここに、このワークショップでの経験をもとにいくつか勉強計画を示します。

1. 四年生末の CBT を受けるにあたり、アメリカの USMLE 対策の first aid を CBT 対策と併用していきたいと考えています。ひとまずの目標としては、佐賀で首席を取りたいと考えています。何も周りとの勝負をして勝ち負けを示したいわけではないです。ただ、自分の勉強法、やり方、スタンスの正当性を示すのに良い機会だと考えるので、この目標とします。
2. 週に1度部活で開いている勉強会の部員の参加率の向上、英語の少しずつの導入はできればしていきたいです。PBL を英語で進行していけるレベルまで持っていければいいなと考えます。
3. 他大学との医学教育の情報交換、交流の場も設けることができたらいいな、とも考えています。やはり、自分の大学に引きこもっていても、得られること、刺激には限界があると今回感じました。

最後になりましたが、今回のワークショップ参加にあたり、お世話になった佐賀大学関係者、ハワイ大学関係者、ワークショップでの他の大学のメンバー、一緒にハワイに行ったメンバー、みなさまにはお世話になりました。本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

以上で私のワークショップの参加報告書を終わらせていただきます。



報告書④

ハワイ大学臨床推論ワークショップに関する実習報告書

今回私は、佐賀大学・同窓会・後援会支援のもと2016年の8月7日から12日までの6日間ハワイ大学 John A. Burns School Of Medicine の Summer Medical Education Institute に参加してきました。日本各地の大学からも参加者がいました。ワークショップを通して、ハワイ大学の学生の意識の高さや、教員の情熱、また各地の大学参加者の意識の高さを感じました。ワークショップの内容は、PBL、胸部診察、禁煙外来、医療面接、注射、機械を用いた実習、ハワイの文化体験でした。

PBL



ハワイの学生二人がチューターとなつてのPBLでした。

チューターがどんどん介入してきて、知識の確認をしてきます。進行も形がしっかりしていて、知識の整理がしやすかったです。

資料作成、発表はその日のうちに終わらせます。ハワイでは、週に2症例するそうです。

胸部診察

視診、触診、聴診を行いました。

患者さんにストレスを与えないような心配りも学びました。

禁煙外来

模擬患者を通して、禁煙外来について学びました。マニュアルをもとに、機械的にならないよう、患者と良い関係を築きながら禁煙を指導するというものでした。Dr.Sakaiが、「患者さんの顔面にパンチをしなければ上手くいく」と言っていました。自信を持つということでしょう。

模擬患者との医療面接、胸部診察

呼吸困難を訴える患者さんに対して、医療面接と胸部診察を行いました。

事前にPBLで呼吸困難の症例を学んでいたため、その知識の整理になりました。

知識と実技両方が結びつくものでした。

注射

筋肉注射、皮内注射、皮下注射をしました。

このような体験をするとは思っていませんでした笑
打つ人が緊張したら打たれる人にも伝わります。

機械を用いた実習

赤ちゃんのモデルでの身体診察や、内視鏡を使った手技を体験しました。
モデルでの練習は、患者さんへの負担がないので、有効らしいです。

ハワイの文化体験

フキダンスというものを学びました。

陽気なリズムに乗って踊ります。

講師がこの踊りは健康にいいと言っていました。自分も踊ってみて、リラックスできた
感じがありました。

アロハディナー



みんなアロハシャツを着て、食べて、踊ってと楽しい時間を過ごしました。

振り返ってみて、とても中身の濃いプログラムでした。充実した内容で、楽しく過ごせました。英語に関しても自信が持てた気がします。日本から来た学生もみんな意識が高くいい刺激になりました。

このような素晴らしい体験をさせていただいた、佐賀大学及び後援会・同窓会の皆様、小田先生、福森先生、木本先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。